

国際再生可能エネルギー機関
第5回総会
宮沢経済産業大臣 議長就任挨拶

1. 冒頭

閣下、アドナン・アミン事務局長、各国代表団の皆様、御列席の皆様。

おはようございます。第5回 IRENA 総会に、ようこそおいでくださいました。

日本の経済産業大臣の宮沢洋一です。このたび、IRENA 第5回総会の議長を務める機会を頂き、大変光栄に存じます。

2. 再生可能エネルギーの拡大

IRENA の設立以来、わずか4年弱で139もの国や地域がその加盟国に名を連ねたことは、将来のエネルギー源の一つとして、再生可能エネルギーへの期待がいかに大きいかを物語っています。

2010年からの数年間の変化を見ても、例えば、太陽光発電は約3倍となり、風力発電も1.5倍以上に拡大するなど、足下で世界の再生可能エネルギーは急速に拡大しつつあります。もちろん、再生可能エネルギーが活躍するのは、発電分野だけではありません。自動車燃料等に利用されるバイオ燃料も世界各国で拡大しており、航空機燃料としての利用も模索されつつあります。

また、将来のエネルギー情勢を見通せば、再生可能エネルギーが果たす役割は更に拡大し、世界の主要なエネルギー源の一つに成長すると予測されています。既に太陽光発電や風力発電については、年々その導入コストが低減し、これが更なる普及を促すという好循環が生まれています。また、例えば、浮体式の洋上風力発電を実用化することにより、これまで活用できなかった水深の深い海域にも設置できるようになり、洋上風力発電のポテンシャルが、一気に拡大します。

再生可能エネルギーは、気候変動問題への対応においても重要な解決策の一つです。世界のエネルギー情勢を見れば、経済成長に伴い、新興国を中心に世界のエネルギー需要が中長期的に増大することは明らかです。経済成長と気候変動対策を両立させるためにも、再生可能エネルギーのポテンシャル

を最大限に活用できるよう、IRENA が中心となって、世界をリードしていくことを強く期待しています。

3. 日本としての貢献

もちろん、再生可能エネルギーの導入拡大には、安定的な系統の運用など様々な課題も指摘されています。しかし、先進的な蓄電池の活用など、課題解決に向けた技術も日々進歩しています。日本としても、引き続き、最先端の技術開発の成果を、IRENA を通じて紹介し、世界の将来を担うエネルギー源である、再生可能エネルギーの普及・拡大に貢献してまいります。

4. 結語

今次総会でも、再生可能エネルギーの普及に向け、多くの課題が議論される予定です。IRENA がエネルギー革命をリードするために、どのような役割を果たすべきか、活発な議論が行われることを祈念して、私の議長としての御挨拶とさせていただきます。